

令和7年度 都城市立丸野小学校 学校評価書

学校の教育目標	丸野愛(本校に関わる全ての人が一一人を大切に思い行動する心と体、丸野への郷土愛)を育む学校			【評価の基準】 3.6~4.0 期待以上 3.1~3.5 期待通り 2.5~3.0 やや期待を下回る ~2.5 改善を要する				
	学校経営ビジョン	子ども、教職員、保護者、地域、みんながつながる学校づくり						
目指す児童像	考える子ども・思いやりのある子ども・元気な子ども							
評価項目	評価結果(平均値)			学校運営協議会委員の評価	総合評価(平均値)	現状と改善策		
	職員	保護者	児童				成果・課題等	評価
1)子どもを「主体」にした「わさび」を意識した授業づくりを進めている。	3.2	3.0	2.9	LDXの公開を活かし、次年度以降も更に子どもが主役の授業を研究推進していく。	3.6	○子どもにしっかりと考えさせる授業ができていて素晴らしい。 ○タブレットを普通に使うようになってきている。	3.1	○学習用端末を活用した「子どもが主役」の授業も定着してきた。文科省指定のLDX研究公開の経験を踏まえ、更に自己調整・対話型の授業を研究推進していきたい。
2)児童は、読み・書き・計算等の基礎的な学力が付いている。	2.1	3.1	3.4	授業改善とともに朝の時間等を活用した習熟の時間の確保が必要である。		○集中力がすごい。授業参観で教室の後ろに入っても、後ろを振り向く児童がいなかった。 ○先生方が子ども達のために全員で心一つにして頑張っており、下さっている姿がよく分かる。	2.8	○読み・書き・計算等の基礎的な力が身に付いていない実態があるので、授業改善はもとより、朝の時間を活用した取組を全校で実施していく必要がある。
3)児童は家庭学習に毎日しっかり取り組んでいる。	2.6	3.2	2.8	「けずぶれ」の家庭学習を継続し、家庭との連携を更に深めていく。		○先生方が子ども一人一人に目を配り、声掛けをされ、学習や運動等に取り組んでいる姿が素晴らしい。	2.8	○読書量、読書の質の向上を図るため、図書委員会の自発的な活動や図書館サポーターの活用を更に充実させていく。
4)児童は、よく本を借りて読書に親しんでいる。	2.3	3.0	2.5	図書サポや図書委員会の活動を推進し、読書量を全校的に増やしていく取組が必要である。			2.6	
5)授業時に赤ペンでまるつけをしたり、端末を活用したりしながら学習状況を把握している。	3.2			教師が意識した取組ができ、ICTの活用により、個々の学習状況を把握できた。			3.2	
6)小さな達成感(「できた」「楽しかった」)を積み重ねる支援や教師のリフレクションタイムを行う。	3.5			クラウドアプリを活用し、全職員で全校児童を見ていく取組として、非常に有効であった。		○学校から帰るとき(下校時)、気を付けてほしい時があった。 ○あいさつは、できる子とできない子がいる。	3.5	○リフレクションタイム(職員)の充実により、全職員で全校児童を見る視点が生まれ、児童の良い面を褒める機会が増えた。
7)児童は、自分から進んであいさつや返事をしている。	2.6	3.1	3.3	あいさつができる児童が多いが、個人差もあるので、継続的な取組が必要である。	3.6	○とても良い環境で、素晴らしい教育が行われ、活気を感じる。	3.1	○あいさつや廊下歩行等の基本的なルールが守られていない実態があるので、全職員で共通理解の基、今後も指導を継続していく。
8)児童は、学校の約束やきまりをしっかりと守って行動している。	2.7	3.4	3.4	職員と児童・保護者で認識の差があり、学校と保護者、地域の連携を更に深めていく。	3.5	○地域のみまりはよく守られていると思う。あいさつもよくできている。	3.2	○90%以上の児童が「学校が楽しい」と回答しているので、今後も家庭や地域との連携を大切に、児童の健全育成に努める。
9)児童は、自分のことは自分から進んでやっている。また、学級の係や委員会の仕事に意欲的に取り組んでいる。	2.8	3.1	2.8	自発的、自治的な活動、責任感の醸成など、課題を明確にして取り組んでいくことが必要である。		○校区内に転居して来られる家庭もあるが、なかなか地域とのつながりをもつことが難しくなってきた。	2.9	○ソーシャルスキルトレーニングを継続しながら、自分の思いを伝えて、より他者と関わったりする力を高めていく。
10)児童は、学校生活を楽しく過ごしている。	3.3	3.4	3.3	月1回のアンケートを軸として児童の小さなサインを今後も見逃さないようにしていく。			3.3	
11)児童は、友達に優しくすることができている。	3.2		3.4	思いやりがあり、優しい児童が多い実態がある。今後も人間関係を見守っていく。	3.0		3.2	
12)生徒指導等の事案が発生した時、素早く対応(管理職への報告、聞き取り、全体指導等)し、保護者と情報共有している。	3.6			人間関係の固定化を軟化するため、多様な学習や活動の機会を今後も取り入れていく。		○各公民館としても、子ども達に楽しんでもらえるようなイベントを企画していきたい。	3.6	○業間、休みに外遊びをする児童が比較的多いので、今度も外遊びを勧めながら、体育科の授業の充実も図り、体力向上を推進していく。
13)児童は、積極的に外遊びや運動に親しみ、必要な体力が身に付いている。	2.6	3.2	3.1	体育科の指導を中心に昼休み等の外遊びも奨励しながら、今後も体力向上を推進する。	3.2	○放課後や休日、子どもが外で遊んでいる姿をあまり見かけない。屋内で過ごすことが多くなってきているのでは。	3.0	○早寝・早起き・朝ごはんを中心とする基本的な生活習慣が十分でない児童もいる。今後も家庭との連携に加え、関係機関との連携を進めていく必要がある。
14)児童は、食に関心をもち、望ましい食生活を送ろうとしている。	2.8	3.4	3.0	給食センターや保健室からの啓発資料を今後も提供し、家庭との連携を図っていく。		○様々な活動や交流を通して、地域とのふれあいを行っているので素晴らしいと思う。	3.0	○児童の地域に対する関心は高い結果となった。これを活かし、地域連携の取組を更に充実させ、職員が地域のよさにふれる機会にする。
15)地域の人や施設、歴史などを題材としたふるさと教育に積極的に取り組んでいる。	3.3	3.1		地域人材や外部講師を今後もフル活用しながら、多様な学習を今後も計画、実行する。			3.2	
16)児童は、ふるさとに関心があり、地域を誇りに思っている。	2.8	3.1	3.5	保護者・児童ともに地域を誇りに思う傾向が高い結果になった。地域資源を今後も活用したい。			3.1	
17)学級通信や学校だより、ホームページ、メール等の配信を通して、学校や児童の様子を積極的に発信している。	3.3	3.1		学校ホームページ、参観日等の連絡、保健室からの連絡等、完全デジタル化を実現できた。	3.6	○学校運営協議会等で学校と情報交換できて良いと思う。	3.3	○学校ホームページは随時、更新することができた。今後も地域への発信を続け、地域とのつながりを大切にしていきたい。
18)ふるさと教育の充実のため、地域ボランティアを積極的に活用している。	3.3			地域ボランティアとの連携を今後も大切にし、地域とともにある学校経営を推進していく。	3.8	○夏休み中の寺小屋サロンは現在1カ所しかないため、丸野小でもやってほしい。協力できる。OPTAにももう少し頑張ってもらいたい。共稼ぎになり、忙しいのも分かるが、自分の子どものためなのだから、できる限り学校に協力してほしい。	3.5	○校区内施設との交流は新規も含め、今年度も完全実施ができたので、次年度も継続して取り組んでいく。
19)職員相互の健康や育児、介護等をお互いに理解し、フォローする組織づくりができている。	3.7			職員が少数であるが、チーム丸野として、全職員で協力し合いながら、計画通りに教育活動を進めることができた。			3.7	